

# 災害が起こったら — 避難行動

危険度	小				大
警戒レベル	警戒レベル 1	警戒レベル 2	警戒レベル 3	警戒レベル 4	警戒レベル 5
避難情報 			避難準備・ 高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示（緊急）
町民の皆さんの とるべき行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害への心構えを高める</li> <li>最新情報に注意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新の気象情報などを入手する</li> <li>避難所などの位置を確認する</li> </ul>	<b>避難の準備をする！ (高齢者等は避難する！)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族と連絡を取る！</li> <li>非常持出品の用意！</li> <li>避難に時間がかかる人は、避難を開始する！</li> </ul>	<b>避難する！</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>近所に声をかけ、複数で避難する！</li> </ul>	<b>すぐに避難する！</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難していない人は避難する！</li> </ul>
気象情報 	早期注意情報 (警報級の可能性)	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報、洪水警報	土砂災害警戒情報	大雨特別警報 (数十年に一度の大雨)
周囲の状況 災害発生の目安	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなる	大規模な災害の発生するおそれ強く、嚴重な警戒が必要	大雨や暴風が特に異常であり、重大な災害の危険性が著しく高い
雨の降り方	1時間雨量 20～30mm 未満	1時間雨量 30～50mm 未満	1時間雨量 50～80mm 未満	1時間雨量 80mm 以上	記録的短時間大雨情報 1時間雨量 100mm 以上
松崎町の過去の災害			昭和 52 年 11 月 17 日 最大時間雨量：55mm	昭和 51 年 7 月 10-12 日 伊豆地方中・南部の大雨 2日間雨量：400～500mm	・死者 2 人、負傷 5 人 ・全半壊流失家屋 15 戸 ・浸水家屋床上 166 戸・床下 528 戸
川の 防災情報 		氾濫注意情報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	氾濫発生情報
土砂災害警戒判定 メッシュ情報 	今後の情報等に留意	注意	警戒	非常に危険	極めて危険

土砂災害警戒判定メッシュ情報とは、大雨による土砂災害発生の危険度の高まっている領域を5kmのメッシュごとに、5段階に色分けして示した情報です。気象庁ホームページから確認ができ、どの範囲で土砂災害の危険度が高まっているかを把握することができます。

この表はあくまでも目安です。雨の降り方などの状況によっては、表のような順番で情報が出るとは限りません。各種情報を積極的に収集し、自らの判断で避難をしましょう。

## 気象庁の注意報・警報基準

松崎町の大雨と洪水に係る警報・注意報は静岡地方気象台より、以下の基準で発表されます。詳細は気象庁ホームページなどをご確認ください。

種類	表面雨量指数基準 ※1	土壌雨量指数基準 ※2
大雨	警報	18
	注意報	13

種類	流域雨量指数基準 ※3	複合基準 ※4
洪水	警報	那賀川流域=23.9 岩科川流域=14
	注意報	那賀川流域=19.1 岩科川流域=11.2

記録的短時間大雨情報	1時間雨量	110mm
------------	-------	-------

- ※1 短時間強雨による浸水危険度の高まりを把握するための指標です。
- ※2 降った雨による土砂災害危険度の高まりを把握するための指標です。
- ※3 河川の上流域に降った雨により、どれだけ下流の対象地点の洪水危険度が高まるかを把握するための指標です。
- ※4 表面雨量指数基準、流域雨量指数の組み合わせによる基準を示しています。

## 避難の心得

避難するときは、隣近所で声を掛け合い、なるべく複数人で避難するようにしてください。危険な箇所は避けて、遠回りでも安全な道を歩きましょう。

### みんなで助け合って避難を

避難をするときは、隣近所のお年寄りや障がいのある方に声をかけ、協力して避難しましょう。



### 動きやすい服装、複数人での避難

長靴やサンダルは危険です。運動靴を履き、両手が自由になるよう持ち物はリュックサックに入れて徒歩で避難しましょう。



### 非常持出袋

災害時に必要な物は一人ひとり異なります。自分に必要なものを事前に準備しておきましょう。



### 斜面の近くは通らない

斜面は一瞬で崩れ落ちることがあるので、近づかないようにしましょう。



### 流れのある場所は近づかない

ゆるやかな流れでも、ひざの高さになると大人でも歩くのが困難です。小さな河川や流れのある場所に近づかないようにしましょう。



### 浸水している場所は注意が必要

浸水している場所は茶色く濁っており、水路と道路の境や側溝、ふたが開いているマンホールの穴は見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認するなど、注意しながら移動しましょう。



## 状況に応じた避難先を検討しよう

### 屋内安全確保（垂直避難）

夜間や急激な降雨により、避難所までの経路にある危険箇所が分かりにくい場合や、浸水などにより歩くことが困難な場合、感染症の対策などで屋外に出ることがかえって危険なときは、自宅の2階以上や近隣のより高い建物へ避難するなど最大限命を守る行動をとります。



### 立退き避難（水平避難）

河川の近くや浸水深が大きくなる地域、家屋倒壊等氾濫想定区域など、そこにとどまることが危険な場合などは、親戚・友人宅や公民館、指定された避難所へ避難しましょう。立退き避難は災害が発生する前に行うことが原則です。



## 避難行動要支援者を支援しよう

災害時に各種警報や情報の収集が困難で、避難等に介助が必要な高齢者、障がい者、外国人等、配慮を要する人を**要配慮者**といい、そのうち、自ら避難することが困難で特に支援を要する人を**避難行動要支援者**といいます。

- 視覚や聴覚に障がいがある人には、確実な情報手段で避難情報を伝えましょう。
- 外国人には、身振り手振りを交えて災害情報や避難情報を伝えましょう。
- 乳幼児や高齢者は手をつなぐ、背負うなどして避難誘導をしましょう。



- 避難経路に車いすなどの通行が困難な階段など、障害物がないか確認しましょう。
- 避難行動要支援者一人に対して、複数の住民による援護が必要です。日頃から具体的な救援体制を決めておきましょう。

